

饅頭は観音さん・松江市八雲町

令和3年1月11日

収録・解説・酒井 董美

たよし

イラスト・福本 隆男



語り手 稲垣カズコさん
(明治39年生まれ)
収録・平成3年11月16日

あらすじ

とんとん昔。山寺に和尚と小僧と二人住んでおったげな。和尚が、「法事で出かけから、本尊さんの饅頭を食うだないぞよ。あれにはなあ、食うと悪もんが入っちゃうけに、ありや食っちゃあならんけに」と言ったそうな。「はい、ええ行儀しています」小僧は「毎日、掃除や庭の草取りや水汲みで大変だ。今日は本堂で昼休みをしよう」と仰向けに寝ておったども本尊さんの饅頭が気にかかって、須弥壇へ上がって、「本尊さん、それ食わせてござつしやいませんか」と言ったら、本尊さんはにこやかな顔しておられるから、饅頭を割ったけれど、中にアンコのおいしそうなのが入っている。「和尚はわしをどまかいたなあ。食ってやれ」と食べてしまったげな。「ほんにまい饅頭だったなあ。いつたり和尚はあげんまいもん食っちゃって、わしにはいもいつもまんないもんばっかあ食わせちよって、ああ、今

日はほんに二つあつたけえ、もう一つああけん、まあ本尊さんに頼んでみよう」「なんと本尊さん、悪いとは分かっちゃいますけども、もう一つもどぞ食わせてござつしやいませ」。また本尊さんは黙っておられたけれどもにっこりしておいでる。小僧はそれも食べてしまったげな。和尚がもどいたら叱られえけに本尊さんの口にアンコひつつけ、饅頭のこげたのを落とすよりや、和尚が怒っても、「そこ見さつしやい」と言われえけに、と思つたげな。庭箒で掃くふうをしておたら和尚が帰つてこられたげな。和尚さんは、本尊さんの前へ行つて見たら、饅頭が見えないげな。「小僧、本尊さんに飾つた饅頭、なんで取つて食つてしまつたら」。「いや、食つちよません。本尊さんの口にアンコつけちよらつしやいます、本尊さんが食つちよあつしやあわね。和尚さん、鉦たたく棒持つて、本尊さん、たたいてみさつしやい。『食つた』て言わつしやあけん」。

和尚さんが笑うされたら、本尊さんは金でできておられるから、「カーン、カーン(食わん、食わん)」と言われたげな。「本尊さんは『食わん、食わん』て言わつしやった。おまえが食つたに相違ねわ」。和尚さんが怒られたから、それから小僧が、台所の大釜に水を汲んで、小屋から木を持ってきて焚いて、「和尚さん、本尊さん、湯に入らせてあげえがええけに」小僧が須弥壇の本尊さんを抱えたまま、釜の湯が煮えているところへ、本尊さんをつけたげな。やがてのことに本尊さんが、「食つた食つた言わつしやになつた。和尚さんもいや。参つた、参つた」と小僧の頭をなでられたげな。そういう話で、こつぽし。

解説

稲垣さんの語りの特色は、いづれもじつにきめの細かいもので、同じ種類の話でも他の方が語れば、分量的にずつと少ないのが普通である。今回の話は「飴は毒」という題で知られているものである。(元島根大学法文学部教授)

